

第4回大田市学校のあり方に関する実施計画検討委員会 会議録

日 時	令和2年7月3日（金） 14：00 ～ 15：55		
場 所	大田市民会館 中ホール		
出席者	委 員： 20名／23名 （欠席：藤井伸治委員、渡利章香委員、大國一津美委員） 事務局： 船木教育長、川島教育部長 勝部総務課長、和田学校教育課長、後藤社会教育課長、 藤原まちづくり定住課長、布野子育て支援課長、田村子ども家庭相談室長、 森総務課長補佐、寺岡総務管理係長、 岡田学校教育課指導講師（グラフィックレコード担当）		
傍聴人	8名	報道機関	4社（NHK、ぎんざんテレビ、山陰中央新報、島根日日新聞）
次 第	別紙のとおり		
概 要	以下のとおり		
附 記	本委員会は原則公開		
<p>1. 開会（進行：勝部総務課長）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員の半数以上の出席を確認後、本委員会の成立を報告 （検討委員会設置要綱第6条第2項による） <p>2. 令和2年度に新たに委員を委嘱した7名の自己紹介</p> <p>3. 船木教育長あいさつ</p> <p>4. 協議（議長：岸本委員長）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ 皆様のご協力によって内容をより深められるようにしていきたい。 委員会の全体概要、基本的な流れについての説明の後に、実施計画案の重点的取り組みの実施のうち、ふるさと教育と自立と共生について説明していただきたい。 			
<p>計画策定の意義と今後の進め方について、川島教育部長より説明（資料No.3～5）</p>			
<p>【協議事項】 学校のあり方に関する実施計画（案） 重点的取り組みの実施のうち （1）ふるさと教育、（2）自立と共生について、事務局（勝部総務課長、和田学校教育課長）より説明（資料No.6～No.9、子どもの育ちと学びのめやす）</p>			
<p>協議事項に係る質疑応答 （1）ふるさと教育について</p>			
発言者	内 容		
平田委員	地域との意見交換会の中でのさまざまな意見をどのように捉え、今後どのように活かしていくのか。		
川島部長	さまざまな意見をいただいております。項目ごとに主な意見を整理して次回までに委員の皆さんにお送りする。いろいろな視点の意見をひとつにまとめることは難しいが、地域からの意見を踏まえたくて委員の皆さんのご意見を伺いたい。		
平田委員	地域の方々にきちんといろんな情報を届けることをお願いしたい。		

発言者	内 容
吉田委員	<p>②で「地域や保護者と連携」と記載されているが、「保護者」ではなく「家庭」が適切ではないか。</p> <p>「ひと・もの・こと」などの地域資源を生かした事業については、社会教育活動として公民館が積極的に進めており、総合計画にも記載されているので、公民館との連携についての記載も必要ではないか。</p>
川島部長	<p>②の「地域や保護者」については、整理する。</p> <p>①の「地域と学校をつなぐコーディネーター」は、社会教育の地域学校連携活動のコーディネーターのことも想定しているが、記述についてはどのように強調し分かりやすくするかご指摘いただきたい。</p>
高橋委員	<p>ふるさとってどこだろうかということが最初の疑問である。学校の再編により自分が住んでいる所でない場所に通う子どももいるので、自分のふるさとを感じながら学校に通うことが難しくなっている。</p> <p>ふるさと教育は非常に大切なことであり、もっと深めていってもらいたい分野のひとつである。</p> <p>大田西中の学校運営協議会の中でいろんな意見を出しながら先生方が工夫してふるさと教育をされているが、今後ふるさと教育という文字が独り歩きするのではないかという気がしている。</p>
岸本委員長	<p>ふるさとのとらえ方は多岐にわたる。今後どういった使い方をしていくか難しい部分があるが、それぞれについて、こういった内容を含んでいるということを少し整理しておく必要がある。</p>
岩谷委員	<p>ふるさと教育と高校の魅力化のつながりが十分にできていない気がしている。各段階がつながるには、お互いにPRし見合うことが必要なので、具体的取り組みの中にしっかりいれてほしい。</p>
笠井委員	<p>幼稚園、保育園の頃は、ふるさとに対する思いを育てるには大切な時期であり、段階に応じたふるさと教育は大切なことである。</p>
吉川委員	<p>小中と高校がつながるふるさと教育はできていないイメージを持っている。</p> <p>小中でやってきたことがわからないまま取り組んでいるのが現状である。</p> <p>邇摩高校は、できるだけ将来地元就職させようということで、地元の方とつながりながら、少しでも地元を向けていくような教育を行っている。</p> <p>小中でどんなことをやって、高校で何をすればよいか、資料7の2ページにあるような小中高でつながるふるさと教育をどういうふうにするか、計画的に行うか考える必要がある。</p>
松場委員	<p>Iターン者からすると、ふるさと教育の内容はなんだろうというところがある。</p> <p>小中高がつながるということでは、たとえば高校の部活などの内容をネット配信などで見ることができればもっとよいと思う。</p> <p>学校の中に、海外から来た子どもや両親の母国が違う子どもがおり、多様性も大切にしないといけない。保護者の国とネットをつないでお互いのふるさとについて交流するとか、そういう場も自分のふるさとをつかめることにもなるし、相手の多様性を認める大切な機会となるので、こういうこともふるさと教育として入れていただきたい。</p>
岸本委員長	<p>現状と課題、展望という視点で発言いただいたので、今後、このところをしっかりと織り込んでいただきたい。</p>

発言者	内 容
渡邊委員	<p>ふるさと教育の中に、コミュニティスクールが入っていることに違和感がある。コミュニティスクールは教育を俯瞰するものであり、ふるさと教育に特化したものではない。</p> <p>防災教育の充実についてもふるさと教育に入れる必要があるのか。</p> <p>ふるさと教育については、大田市ならではのものを打ち出していく必要がある。三瓶山や石見銀山についてしっかりと学ぶような固有名詞も出しながらふるさと教育の中味の部分に踏み込んでもらったほうがよい。</p>
船木教育長	<p>大田市独自の特徴あるふるさと教育が大事であると思っている。</p> <p>世界遺産の石見銀山がこの度日本遺産にも認定されたことも含めて、ふるさと教育の中に、より具体的に入れていくべきだと思っている。</p> <p>中味をある程度修正しながらお示ししたい。</p>
川島部長	<p>学校運営協議会は、大田市では6校が取り組んでいるが、もっと定着しないといけない。体制をしっかりと作り、教育委員会もフォローしていくことが必要ということで、掲げている。</p>
渡邊委員	<p>重点的取り組みとしてコミュニティスクール化を推進するのであれば、柱の一本に出てくるのかなという気持ちをもっている。</p> <p>ふるさと教育では「ひと・もの・こと」などの地域資源を活かすということだが、どういうふうに具体的に落とし込んでいくかというところがあってよいのではないか。</p>
岸本委員長	<p>柱の掲げ方が少し捉えにくのではないか。</p> <p>コミュニティスクールはどこでも取り組んでおり、大田市ならではのふるさと教育に関わる部分がどう包含されるかが問題である。コミュニティスクール化したうえで、その中にどういったことを埋め込んでいくかという問題ではないか。</p>
石田委員	<p>友だちと一緒に遊んだということがふるさとを思い出すことにつながると思う。遊びの場を大人が支援して作ってやる必要がある。</p> <p>どこに入るかわからないが、学校以外のところでみんなで何かをするということ盛り込んでほしい。</p>
協議事項に係る質疑応答 (2) 自立と共生について	
吉村委員	<p>①の中の乳幼児期からの読書習慣の定着における「良書や美しい音声言語」という表現はふさわしくないのではないか。「様々な書籍や音声言語」に変えていただけるとよいと思う。</p>
和田課長	<p>子どもたちが小さい時からネットに触れる機会が多いので、文字への興味や言葉を操ることの楽しみを感じてほしいということで書いている。今言われたような表現を検討させていただく。</p>
川島部長	<p>「良書」、「美しい」ということは、人によってとらえ方が異なる。ご提案いただいたことを検討する。</p>
笠井委員	<p>①において、「学ぶ意欲の向上を目指します。」のところが小学校低学年、「乳幼児期からの読書習慣の定着」が就学前という印象を受けた。</p> <p>読書習慣の定着は大事なことだが、これがタイトルとして出てくることに違和感がある。根本的な別のタイトルを掲げていただいて、その中に読書習慣などを入れていただくと思う。</p>
勝部課長	<p>タイトルを含めて整理する。</p>
岩谷委員	<p>重点というわりには、具体的なことがたくさん出てくる。本当に大事なものは何か、もっと絞った方がよいのではないか。</p>

発言者	内 容
川島部長	基本方針の自立と共生において、今やっていることも含めて6つの項目を掲げている。表記のしかたについては、ご意見をいただきたい。
岸本委員長	すべて大事なことであるが、今一度見直していただきこのままでよいということであればそれでよいと思う。
景山委員	⑤の中のインクルーシブ教育について、今の交流とどう違うのか。
和田課長	今もインクルーシブ教育を進めている。大田市内には、特別支援学校の分教室があり、より専門性の高い交流学习、共同学習を進めておられるので、そういうところと交流していきたいということで載せている。
田中委員	「大田市相談支援ファイル」は、どういうもので、どういう使い方をするのか。一人一人が持っているのか。
和田課長	(本物を回覧) 資料7の3ページ上段に記載しているが、障がいのある子どもさんが小さい頃からいろいろな専門機関の支援を受けておられ、いろいろな方がかかわっていることを記録するもので、このファイルを見てもらえば、どのような支援や連携を受けておられるかがわかる。 全員が持っているわけではない。保健師さんがいろいろな場面で勧めており、就学支援委員会にかかられた子どもさんには勧めている。
平田委員	外国人児童生徒への支援について、現在大田市では日本語指導支援はなされていないと思うが、子どもの問題だけでなく保護者への支援がとても大事になってくる。日本人の子どもより早期に保護者と接触する体制を標準の形にしてほしい。
川島部長	保護者との連携において、外国から来られた方とは言葉の壁があるので、学校では、わかりやすい日本語で連絡したり、保護者のどちらかが日本語がわかればその方と連絡をとっている。 アプリも導入しながら、保護者との連絡や子どもとの意思疎通を図っていかなければならない。
平田委員	生活言語はできても学習言語となると身につけていない部分がたくさんある。保育園の時から配慮していただければよいと感じるところがあるので、保育園から小学校にあがる時の連携をすでにされていると思うが、さらに外国籍の子どもたちに関しては必要であると感じる。
松場委員	②の3つの項目の取り組みについて、対象者はだれなのか。 「大田市相談支援ファイル」について、外国の子どもも使えるよう外国語バージョンがあるのか。
和田課長	「子どもの育ちと学びのめやす」を活用した支援、「スタートカリキュラム」、「大田市版キャリアパスポート」については、すべての子どもが対象である。「大田市相談支援ファイル」については、障がいのある子どもさんに勧めることが多い。書き方がばらばらなので、整理する。 「大田市相談支援ファイル」現在は、日本語版のみである。
松場委員	母子手帳に外国語バージョンがあるように、「大田市相談支援ファイル」にも外国語バージョンを作してほしい。
石田委員	自立とは、人の意見に惑わされない、人に流されないとか、自分の意見をしっかり持つことではないか。 共生では、みんなと一緒に何かをやるという協調性、人のいやがることをやらないといった基本的なことを遊びの場で体験して、子どもは成長していくと思う。

発言者	内 容
岸本委員長	協議事項について質疑がなければ、せっかく出席していただいているのでおひとり一言ずつお受けしたい。ご発言のなかった委員の方にお願います。
石賀委員	学校再編の考え方のうち北三瓶小・中学校、志学小・中学校の項目で、「令和4年度の開設を目指します。」と記載してあるが、前々回に結論ありきでことを進めるのはどうかとの意見を出した。このまま令和4年度開設を目指してものごとを進めるのか。
川島部長	学校再編の考え方については、これまでの検討委員会の中で、うつわありきの議論をすべきではないとの意見をいただいている。 資料4でご説明したとおり、大切なものは何なのかを議論したうえで、その実現のためにはどういう体制がよいのか、委員の皆さんのご意見を伺うこととしている。よって、実施計画案の3ページのまま進めて行くということではない。
山崎まり子 委員	ふるさととは大人が示す姿であるので、いいふるさとを子どもに見せてやりたいとずっと思っている。 汚い言葉も美しい言葉も文章の中にたくさん書かれており、大人が聞き取って共に手や声や目を貸してやることで子どもが育っていくことにつながる。人的環境を含めて、周りで温かく見守っていくことが子どもの自立と共生の心を育てると思う。
中田委員	青年会議所では、小中学校の児童生徒さんを対象に青少年の事業を毎年行っているの で、学校のあり方や教育について改めて学び直す機会とさせてもらい、私たちの活動を通じて貢献できるようにしていきたい。
山崎哲也 委員	今回は皆さんの意見を聞かせていただいた。今後この場でいろいろな意見を述べさせてもらいたい。特に、自立と共生の中の保幼小中高の連携についてよく聞かせていただいて、意見を述べたい。
谷口委員	皆さんの意見などを聞かせていただいて勉強させていただいた。次回につなげていきたいと思っている。
山根委員	皆さんの活発な意見があり、素晴らしいと思った。次回からは、もっと勉強し意見を出せるようにしたい。
三島副委員 長	今回の議論を聞きながら、練り上げていくことはとても大事だなと思った。自分の中でも改めて見直しができた。事務局も参考にしていただいて、前向きに検討していい内容にしていきたいということなので、こういう場を重ねながら大田市の学校のあり方を具体的にどうしていくかというものができればよい。 言葉がわかりにくいときには、この場で出していただいて確認するほうがよい。
岸本委員長	今日皆さんのご意見を聞きながら、初見でこれを見て、コメントがないと読みにくいというところが何か所がある。こういったところは、プラスしていけばよい。 前回松場委員からご指摘のあったグラフィックレコードを今回採用していただいた。こういったものを残すことによって、つながり、確認もできると思う。
事務局から、次回の検討委員会の日程について周知 日時：令和2年7月31日（金） 午後2時～ 場所：大田市役所4階講堂	

以上をもって、第4回大田市学校のあり方に関する実施計画検討委員会を終了した。